

筆のすすびはあはれ

—平和を願うつら—

新年あけましておめでとございませう。

本年で三十三回展としてこの一月十九日(水)から三十一日(月)まで東京都港区六本木「国立新美術館」で『国際書画展』が開催されます。墨の総合美術展とも言える作品展で、書作品をはじめ水墨画・水墨画に書を書き加えた作品などさまざままで、大変見応えの有る作品展です。私もこの展覧会の第一回展から参加し、現在常任理事として展覧会の運営に当たると共に、門下の方々の作品も数多く出品し入賞者も出しています。

かつてこのように書や水墨画など墨から生まれる総ての作品を総合的にまとめる組織や展覧は日本にはありませんでした。今から三十数年前、「書画一体の全国的な組織を作ろう。」と言う呼びかけに応じて、準備組織の段階から参加し、始めは『日

シエイクスピアの『ロミオとジュリエット』の舞台となった、主人公ジュリエットの家が観光客に公開されて大変変わっているところです。

もとよりヨーロッパは石の文化の街で、建物も道路の舗装も総て石、古代ローマの遺跡がいたるところに残され、ヘエローナの町の中心にも古代ローマ時代の円形劇場がほぼ完全な形で残され、毎年ここで七月から世界中から選ばれた優れたオペラが上演されているとのこと。すへお隣に市役所が並んでいますが、ここも建設されてから三百年は経つという石造りの建物で、マウリッツィオ市長さんを表敬訪問しましたが、一步建物の中へ入ると、机の上には近代的なパソコンが並び美しい絨毯が敷き詰められて、まさに近代的な役所でした。私たちの作品展に対し市長さんちも全面的な支援を下さってオーブニングにも出席して歓迎の挨拶を下さいました。また、在ミラノ日

※「年回の早見表は『豊山寶曆』の最終ページに書かれています。

本書画振興協会

として誕生しました。それが今日大きく発展して

『国際書画連盟』に成長し、この一月から始まる『東京展』(二月から名古屋で開催される『中部展』)そして、三月からは神戸市で開催される『関西展』へと全国から沢山の作品が寄せられる大きな展覧会へと成長発展しました。

この組織は、誕生した時から毎年海外展も開催して、日本の書道文化の紹介も進めてきました。

平成十五年イタリアの「ハエローナ」で開催された『イタリア展』では、日本から百四十五点の作品を持って、私、本城が代表団の団長として参加し展覧会を開催してきました。

イタリアは、ヨーロッパ地中海に浮かぶかかとの高い長靴のような国ですが、ハエローナの町はイタリアの最北部付け根に当たるところにある町で

本総領事館の吉村勝明領事も大変親切な対応をして下さいました。黒崎春子さんとおっしゃる日本からこちらに嫁がれた方を中心に、ヴェローナに住んでおられる、日本出身の婦人の方々が展覧会の準備や通訳をはじめ、受付係りや会期中のこまごまとしたお世話して下さいました。

それにしても、イタリアと言えば、かつて、ドイツのヒットラー・日本の東条英機と並んでムッソリーニが軍国主義独裁者として「日独伊軍事同盟」を結んで世界の大国を相手に侵略戦争を押し進め、ドイツも日本も連合国軍に強大な反撃を受け、人々と大地に甚大な打撃を受けています。イタリアは、国民の勇氣と英智で独裁者を退け、戦禍を防いで国土は完全に無傷で残されたのです。

節分の豆まき行事

一月三日(木)

一月の「節分会」は、本年も午後三時から菩提寺常楽寺本堂で、法要・豆まきの行事を行います

